年頭のあいさつ　　代表理事組合長　中條秀二

組合員・利用者の皆さまにおかれましては、令和６年の新春をつつがなくお迎えのこととお慶び申しあげます。

さて、令和５年の社会情勢は、新型コロナウイルス感染症が５類に引き下げられ、インバウンド需要の改善がなされたことから経済活動が回復基調に転じてきました。

一方、農業情勢は、長引くロシア・ウクライナ戦争や円安等の影響から、エネルギーや肥料・飼料等の資材価格の高騰につながり、農業経営は依然として厳しい状況となっています。このため、輸入依存体制の見直し機運が高まり、食糧安保に関わる「食料・農業・農村基本法の見直し」が進められました。今後も、この動向に留意しながら政府与党に農家支援の充実強化を求めてまいります。

また、令和４年１０月に完成した本所の業務運営も順調に推移しており、今後も本所を組合員・地域住民が集える拠り所として、かつ、人材開発の拠点として「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」に活用してまいります。

ＪＡあいらは、信用事業をはじめとした経営環境が厳しさを増す中で、人と人のつながりを大事にし、「変えるための考動」を基本に自己改革を継続します。そして、「霧島市・姶良市・湧水町との連携」や「商工会議所・商工会との事業連携」による地域活性化の取り組みを強化してまいります。

なお、地域になくてはならないＪＡあいらとなるために「持続可能な収益性と健全性の確保」が強く求められています。

ＪＡあいらはこれからも、事業戦略として「持続可能な事業と地域の発展に貢献できる組織」を目指した活動を展開してまいります。皆様方のご理解・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

最後に、２０２４年が皆様にとって幸多い年となられますことをご祈念申し上げ、年頭にあたってのごあいさつといたします。